

地域・社会貢献人材育成コース

研修趣旨・受講目的

ソーシャルビジネス(社会課題を、ビジネスの手法を用い、かつ、新しい商品・サービス・仕組みを創出して、解決する)について実務的な観点での基礎知識や具体的な実践事例を学び、ソーシャルスタートアップ(ソーシャルベンチャーともいいます。)として活躍できる若手起業家やソーシャルスタートアップを支える人材の育成を目指します。講義では、座学のほか、参加者によるディスカッションや単独又は複数の参加者によるプランの作成・発表を行うなど、より具体的かつ実践的な内容を想定しています。

研修講師



TMI総合法律事務所
京都オフィス 弁護士

渡辺 伸行氏

研修講師



特定非営利活動法人
TABLE FOR TWO International
代表理事

小暮 真久氏

求める受講生

ソーシャルビジネスをスタートアップとして起業し社会貢献したい方(社会起業家)と、これまでに培った社会経験や専門知識を活用してソーシャルスタートアップを支援したい方々やソーシャルスタートアップを育成するためのエコシステムの醸成に関与したい方々(サポーター)の参加を期待します。

受講前に知っておくべき内容・学習文献等

【参考図書】

- ・BLP-Network「NPOの法律相談 知っておきたい基礎知識60」(改訂新版)英治出版、2022年
- ・SSIR Japan編「これからの『社会の変え方』を、探していこう。—スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション10」SSIR Japan、2021年
- ・キャサリン・ケリー・ヤヌス「ソーシャル・スタートアップ—組織を成長させ、インパクトを最大化する5つの戦略」英治出版、2020年
- ・小暮真久「『20円』で世界をつなぐ仕事—想いと頭脳で稼ぐ新しい働き方」ダイヤモンド社、2018年、「社会をよくしてお金も稼げるしくみのつくりかた—マッキンゼーでは気づけなかった世界を動かすビジネスモデル『Winの累乗』」ダイヤモンド社、2012年

※上記に記載の文献は、受講される皆様の学びの参考に記載したものであり、講義に持参いただく必要はございません。

日時	内容	事前課題	場所
10月21日(金) 18:30-20:30	オリエンテーション ～ソーシャルビジネスの基礎知識～ ・ソーシャルビジネス/ソーシャルスタートアップとは ・スタートアップとスモールビジネスの違い ・法人形態の選択 ・事業構造分析(ヒトモノカネ+ライセンス) ・事例の分析	事前課題等 なし	京都経済 センター
11月予定	ソーシャルビジネスの実践事例 ・実際の取組み事例の紹介 ・実務上の課題と対策 ※社会起業家等のゲスト講師の参加も検討	事前課題等 なし	京都経済 センター
11月予定	ソーシャルビジネスの創り方(1) ・「社会問題」にはどんなものがあるか ・社会問題の解決を担うプレイヤーは誰か ・ソーシャルビジネスのフレームワーク～「必要条件」「参入手段」「社会的インパクト」～ ※ソーシャルビジネスに必要な要素をグループワークやディスカッションを通じて一緒に考えていきます。	事前課題等 なし	京都経済 センター
12月予定	ソーシャルビジネスの創り方(2) ・ソーシャルビジネスの実現に立ちほだかる壁 ・ソーシャルビジネスによって生み出されるWin ・どうやって「スケール」するか ※ソーシャルビジネスに必要な要素をグループワークやディスカッションを通じて一緒に考えていきます。	事前課題等 なし	京都経済 センター
1月予定	プラン発表 ・講義を通じて開発した①自己のソーシャルビジネス起業プラン又は ②自身の経験・専門性を活かしたソーシャルビジネスへの関与プランの発表 ・講師による講評・アドバイス、ディスカッション	プランの 作成	京都経済 センター

※日程の詳細については受講申込みの前にお電話、メール、HPでご確認ください。

※講義の進捗や参加者の意見などを踏まえ、第2回～第4回の講義は内容の変更や順序の入れ替えを行う可能性もあります。

このコースを通じて身に付けられる能力・知識・技術・技能

①ソーシャルビジネスとは何か?その存在意義と具体的な実践事例を知る。/②現在の社会において解決すべき社会課題は何か?それを解決するためにどのような方法が考えられるか? そのために自分は何ができるか?を考える。/③ソーシャルビジネスを実践する上で必要となるアイデア・人材・資金などを知り、ソーシャルビジネスの具体的なプランを開発する。/④ソーシャルビジネスに興味がある方々と知り合い、社会課題について様々な意見を交わし、人的ネットワークを深めることが見込まれます。

このコースで目指す姿・修了後のあり方

ソーシャルビジネスをスタートアップとして起業する、社会経験や専門知識を活用してソーシャルスタートアップを支援する、又はソーシャルスタートアップを育成するためのエコシステムの醸成に関与することを期待しています。